



回収、選別されリサイクルされるプラスチック等

ではないか。所見を伺う。
都市再生部長 市は大深度地下の公共的使用に関する特別措置法について判断する立場にないが、再発防止対策が徹底されるまでシールドトンネル工事を再開しないよう求めていく。
議員 陥没箇所と似た地層が本市には3カ所あり、関東ローム層になっている。建造物を作るには最低50以上と言われるN値が関東ローム層は2から8だ。陥没の危険は否めず、中止としか言えないのではないかと市長 しっかりと調べてもらい、その上で判断したい。
議員 環境に影響があるかを市でも調べるべきだ。地域に対する土壌調査等、国が出しているものを市のみにするのではなく市としての分析を行ってはどうか。
市長 国の調査をうのみにするのは避けていきたい。



プラスチックフリー宣言の
まち・三鷹を目指せ



いのちが大事
嶋崎 英治 議員

議員 本年6月、いわゆるプラスチック資源循環促進法が公布され、製品プラスチックは可燃ごみから資源ごみに変わる。本市の分別収集・運搬の方法や費用負担はどのようになるか。

市長 本市では、当初から容器包装も製品プラスチックも一括回収しており、方法や費用負担に大きな変化はないと考えている。

議員 マイクロプラスチックによる生態系破壊や人体への影響が懸念されている。本市の小・中学校では、この問題等について、どの

よう学習しているか。
教育長 小・中学校の理科や保健体育で、プラスチックは自然界では分解されにくく魚等が飲み込んでしまう問題や、巡り巡って人間の健康に悪影響を及ぼすことを学習し、問題意識を持つよう指導している。
議員 本市では、ごみ処理総合計画2022(第1次改定)を策定しているが、プラスチック資源循環促進法の施行に伴い改定が必要だ。改定スケジュールや市民参加について伺う。
生活環境部長 計画の改定は、適時適切に、三鷹市ごみ減量等推進会議での議論やパブリックコメント等を実施しながら進める。
議員 プラスチックから転換する生活・社会等を、事業者、市民、行政が一体になり創ることが重要だ。
市長 指摘のとおり、プラスチックを使用しないこと等を文化として享受していく社会を、どう創り出すか

コロナ治療薬イベルメクチンの
薬事承認を求めよ



いのちが大事
伊沢けい子 議員

議員 厚労省は新型コロナウイルス感染症の予防、初期治療、後期治療のいずれにも効果があるイベルメクチンを昨年より治療薬として認め保険適用も可能だとしている。しかし国が薬事承認をしなければ適応外使用になるので普及していない。自宅療養によって重症化する患者を市内で出さないために、イベルメクチンの薬事承認を市は国に求めるべきだ。所見を伺う。

保健医療担当部長 専門的な独自の判断基準を持ち得ない基礎自治体として、国に薬事承認を現段階で求めることは慎重であるべきだと考えている。
議員 本年2月、東京都医師会の尾崎会長が自宅療養者の重症化を防ぐ目的でイベルメクチンの緊急使用を

提言し、8月にも再び提言していることを市長は認識しているか伺う。
市長 提言していることは市としても承知している。
議員 市内の感染者や自宅療養者の増加に照らし合わせて、提言は有効であると考えている。所見を伺う。

市長 自宅療養を余儀なくされている患者が多く発生している現状を踏まえ、現場の医師が取り得る選択肢の1つとして提言されたものと認識している。
議員 東京都医師会よりも身近なものとして、三鷹市医師会がある。三鷹市医師会の会長と懇談することや申し入れをすることはできるのではないかと。

健康福祉部長 状況にに応じて本市の医師会とも情報共有できればと考えている。

希望を広げる人間尊重の
まちづくりを



いのちが大事
野村 羊子 議員

議員 認知症のある人の意思や心情を理解し、本人を尊重した暮らしを支える支援策が必要だ。
市長 本市でも認知症の人を地域で支え合う事業を推進している。

議員 意思決定や行動の自由が尊重され、生きがいと役割を奪わない、人と社会の相互の関わり合いを保障

することなどを基本理念とする、認知症のある人が希望を持ち暮らせる認知症条例の制定を求める。
市長 認知症に関する課題についても人権基本条例(仮称)における議論と整合性を図りながら在り方の検討を進めていく。

みは自分の人生を諦めずに
議員 認知症のある人の望

希望を持って自分らしく生きていきたい、私は私としてきちんと認めて欲しいということだ。所見を伺う。

健康福祉部長 本市でも地域共生社会の実現を掲げ取り組んでいる。全ての人が自分らしく、生きつらさを抱えないようなまちにしていく必要があると考えている。

議員 絵画系アーティストの支援策としてアート・トイレーやシャッター・アートの寄附の目標金額に対する現在の寄附金額を伺う。
市長 目標金額は3千万円で、7月末時点で207件、約280万円余となっている。
議員 本年度のふるさと納税による市民税減収の見込み額について伺う。
市民部長 本年度のふるさと納税の市税への影響額は現時点で約8億円を超える見通しだ。

コロナ対策などの主要施策に
柔軟に対応せよ



令和山桜会
池田 有也 議員

議員 コロナ禍における市内事業者への支援は状況に応じた適切な対応が必要だ。市内事業者のコロナ関連倒産の件数の推移と業種別内訳について伺う。
生活環境部調整担当部長 令和2年1月〜12月の市内事業者のコロナ関連倒産は5件で内訳は小売業2件、サービス業、製造業、建設業各1件、令和3年1月〜6月のコロナ関連倒産は卸売業の1件となっている。

議員 市内事業者実態調査の結果、スピード感が求められる支援が今後必要になった場合、補正予算を組むなどして柔軟な対応をしていくのか。
生活環境部調整担当部長 緊急を要する支援については議会とも相談しながら緊急の措置も検討していく。

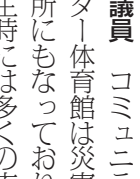
議員 本市では他の自治体へのふるさと納税による市民税の減収が拡大し財政運営に大きく影響している。本年度のふるさと納税によ

を提案する。所見を伺う。
第二副市長 新たな助成制度や予算措置等が必要になる。今後の検討課題とさせてもらう。

議員 外環道工事に係る情報について事業者が隠蔽することがないように自治体がいっしょにたてることが必要だ。所見を伺う。

都市再生部長 事業者からの情報提供で必要なものはこちらから公開していく。

公共施設の利用環境の
整備を進めよ



令和山桜会
吉沼 徳人 議員

議員 コミュニティ・センター体育館は災害時の避難所にもなっており、災害発生時には多くの市民が避難してくるため、早急な空調設備の設置が必要と考える。所見を伺う。
市長 様々なやり方があるので、検討を進めて段階的に導入を図っていきたい。
議員 空調設備について、何年度頃から設置を開始していくのか伺う。
第二副市長 喫緊の課題だと認識しているので、できるだけ早くに取りかかっていきたい。

議員 大型扇風機は熱中症対策の一つであるとともに空調設備設置後も換気等のために適正な台数が必要と考える。所見を伺う。
市長 適正な換気状況の確保に必要な台数を、体育館の規模等を考慮して、施設を管理する各住民協議会と協議しながら検討したい。

議員 災害発生時には多くの市民が避難所に集まる。長期の避難生活を強いられる状況になった時、喫煙者が喫煙できないことによる精神的ないら立ち等から、

教育長 栄養士会等で市内産野菜の使用率の向上を図られるよう具体的な取り組みの推進を重ねて依頼している。また、三鷹市学校給食市内産農産物活用事業補助金を活用し市内産野菜の使用率の更なる向上に向けて取り組んでいる。

議員 避難者同士のトラブルの発生なども考えられる。特定喫煙所が設置されている連雀コミュニティ・センター以外のコミュニティ・センター及びコミュニティ・センター以外の避難所における避難生活者の喫煙環境はどのように確保されるのか。所見を伺う。
危機管理担当部長 災害時においても受動喫煙を防止する法律及び条例の遵守が求められるため、避難所での喫煙に関しても施設に応じて対応することになると認識している。

議員 災害があった時にたばこを吸える避難所に集まる可能性もある。たばこ税は8億円強の予算計上がされており、納税者還元という考えからも、災害時に喫煙できる施設を用意する必要があるのではないかと。
総務部長 たばこが吸えるか吸えないかで人の避難等に違いが出てくるようなことは避けていきたい。一方で、全員が少しでも心穏やかに過ごせるような運営に努めていきたい。

議員 たばこを吸わないと